

## フェイスシールドとマスクの装着実験

ウィーン国立音楽大学出身のバリトン歌手小玉 晃氏がフェイスシールドとマスクを装着して比較実験を行い、Youtubeにアップされました。

◆合唱練習時の感染リスク回避の為にフェイスシールドやマスクを着用することを想定しての実験を致しました。個人的感想を少し述べますと、周りにどう聴こえるかよりも自分にどの様に聴こえるか、そして呼吸は楽かどうかが良い練習をするために重要だと思いました。

### 【実験結果】

**マスクなし**：空間を感じ、響きを聴くことができる。

**鼻出しマスク**：呼吸しやすいが、響きはやや聴きにくい。鼻の下がビリビリする。

**完全マスク**：吸気時に吸い付くので呼吸しにくい。立体マスクなら解決か？ 聴こえ具合は鼻出しマスクとさほど変わらず。

**フェイスシールド&完全マスク**：圧迫感あり。空間を感じて歌えない。響き方が普段と全く違い長く続けると調子を崩す。



**フェイスシールド&鼻出しマスク**：呼吸はしやすいがその他は4と同じ。

**フェイスシールドのみ**：空間を感じて歌うことが難しく、響き方も普段と違う。やはり長時間続けると調子を崩す恐れあり。自分の呼気を多く吸うので酸素不足気味。

**フェイスシールド(空間広め)**：フェイスシールドを使うならこの方法がベストか？ 少なくとも呼吸は楽。マスク併用もあり。

**ハンカチで鼻まで覆面する**：

意外と良い。ただ合唱団が全員これだと悪の組織と間違われる恐れあり。



**何も付けない**：やはり空間を

感じ、響きを聴くことができる。変な力が入りにくい。

7.については、「空間を広く取ると、フェイスシールドによる圧迫感が少なくなるので、そこにさらにマスクを付けてエアロゾルを軽減させることもアリかと思えます。ただ、響きに対する違和感

はあります。装着感にあまり違和感は無いので両方付けていることはさほど苦にならないという意味とご理解ください。フェイスシールドのメリットは口元が見えることだと思うので、マスクをするのであればフェイスシールドをする意味はあまりないと思います。」とのコメントを頂きました。

ここではリンクを貼れないので下記タイトルで検索し実際の音を聴いてください。(PDF版は直接リンク先へつながります)

### プロの音楽家の立場からフェイスシールドとマスクを試してみた結果・・・

<https://www.youtube.com/watch?v=aPDsjML8tVI&feature=youtu.be&fbclid=IwA>

## 愛知県合唱コンクール 無観客で開催

5月15日、愛知県合唱連盟は、8月1日・2日に予定している第60回愛知県合唱コンクールの本番当日を「無観客」で開催すると発表しました。

11月のNコンはすでに中止が発表されましたが、現時点で全日本合唱コンクールについて中止等の発表はありません。

しかし、愛知県ではたとえ全日本が中止になっても開催するという意思を示したものとされます。愛知県では、中学校・高等学校の休業が5月末まで延長されており、各合唱団も練習できない状況が続いているのは他の地域と同じです。

「参加申込期限・代表者説明会・コンクール開催方法等の変更について」という案内が出されています。

申込期限は6月23日、代表者説明会を6月27日とし、出演要項等の配付のみで「出演順抽選会」として開催としています。抽選会は、部門ごとに受付時間をずらして行います。また、予備抽選なしの本抽選のみとなっています。

審査員等に変更はありませんが、誘導経路は例年とは異なり、プログラム広告の募集はしない、コンクール当日のお手伝いにも必要に応じて声がけすると異例づくめの状態です。状況は日々変化しており、更なる変更もありうると述べています。

愛知県はもともと緊急事態宣言区域に含まれていないので、それなりに活動はできていたと思いますが、県連の開催発表により練習が本格化するものと思います。

一方、大阪・京都・兵庫の緊急事態宣言は解除されました。しかし、北海道・埼玉・千葉・東京・神奈川は継続となり、今後1週間程度様子を見て、来週中に、解除するかどうかの最終判断を行うとされています。東京など首都圏の1都3県と北海道は、まだ音楽活動を再開できない状況が続きます。各地で活動再開に差が付き始めてくるのでしょうか。